



淀川河川公園を楽しむ情報誌・葦笛

よしぶえ

2面 まちに緑を
心に花を咲かせましょ

2011・春

NO. 66



春の緑化祭(植木市)5/21(土)・22(日)

観葉植物、鉢植え、苗などの格安販売。うまくいけば超お得！の植木の競り市、淀川のヨシでコースターやタペストリーを作る工作教室(随時)、みんな大好きフリーマーケット等々。玄関を庭をベランダを…好きな草花でいっぱいにして、ついでにまちごと緑で埋め尽くしましょう！守口サービスセンター(守口スポーツプラザ:地下鉄守口駅から徒歩10分)にて10時から17時(15日は16時まで)。小雨決行

こちらにも人気の工作教室

この冬、こんなイベントがありました

絶好のコンディション！ 第15回 淀川河川公園 凧揚げ大会



日差し・風共に恵まれた2月6日、凧揚げ大会が太間地区で行われました。開始前から多くの方に詰めかけていただき、配布凧・手作り凧教室の整理券はまたたく間に底をつきました。凧揚げコンテストでは、次の方々が入賞されました。おめでとうございます。

アイデア優秀賞 デザイン優秀賞 飛翔優秀賞

金 山崎さん(八尾市) 宮崎さん(交野市) 近藤さん(東淀川区)
銀 杉山さん(生野区) 鈴木さん(守口市) 井上さん(枚方市)
銅 松本さん(寝屋川市) 中村さん(枚方市) 毛利さん(大東市)

よくあがったで賞 ファミリー賞 いっしょけんめいつくったで賞

金 本堀さん(寝屋川市) 山本さん(寝屋川市) 樋上さん(寝屋川市)
銀 池山さん(寝屋川市) 平栗さん(枚方市) 鍛冶谷さん(高槻市)
銅 正井さん(枚方市) 江本さん(茨木市) 玉置さん(寝屋川市)

“春の川辺”で43種を確認 第92回淀川の自然を楽しむ会 [河原の野鳥観察]



2月27日、春を思わせる暖かさの中、枚方地区で野鳥観察会を開催しました。今年も227人もの方にご参加いただき、7つのグループに分かれ、日本野鳥の会・シニア自然大学のレクチャーの下、樟葉方面へ探鳥散策を楽しみました。ウグイスの声を聞き、エナガ・シジュウカラの姿を追い…、最後の鳥あわせでは43種が確認できました。



淀川河川公園を楽しむ情報誌・葦笛

よしぶえ

1面 さくら~さくら~
弁当下げていざ出掛けよう

2011・春

NO. 66



“春のトンネル”
桜の背割堤へ”

八幡桜まつり 4/1(金)~10(日)[予定]

4月になったら「背割堤の桜」です。八幡市の三川合流にある背割堤地区では、約1.4kmの堤上に約250本の桜が一斉に咲き誇ります。ゆっくり来ても場所の心配はご無用。長い堤に加え、先端には大きな広場もありますから。炊事施設はありませんので、お弁当持ちがおすすめ。京阪八幡市駅から混んでいても徒歩10分程。駐車場(枚方方面から御幸橋北詰を左折・1,000円/台)もあります。

地元八幡市商
工会の皆さんが
祭を盛り上げます



宇治川に架かる御幸橋から見る堤はまさに桜の帯



ほかにも淀川河川公園には桜スポットがいろいろ



神崎川分流の地・一津屋河畔地区

長柄河畔地区には旧毛馬閘門・洗堰といった
土木遺跡が点在。八重桜も咲いています

背割堤の他にも、淀川河川公園には「桜の庭」が点在しています。…地下鉄天神橋筋六丁目近くで毛馬閘門側の長柄河畔地区をはじめ、城北公園とつながる城北河畔地区、一津屋河畔地区、守口地区等々。お近くの方はぜひどうぞ。意外な穴場になるかもしれませんよ。



特集:淀川河川公園・春の野草紹介

春の草花雑記

野の草花に季節を感じて

昨今、野菜に季節感がなくなり、旬を知らない人も少なくありません。日本には四季があり、昔からその移り変わりをさまざまな自然が伝えてくれています。特に身近でそれを伝えてくれるのは野の草花たちでしょう。新芽が伸び、花が咲き、私たちに春の到来を教えてくれます。また、先人達は四季を、自然を、暮らしに取り入れ、ともに生きてきました。現代の私たちも先人に見習い、自然と向かい合う生き方をしたいものです。

仁和寺野草地区

公園の花壇について「いつ何か咲くのか」といった質問や、「花を楽しみに来ている」などの声をしばしばお聞きします。花壇の花もきれいですが、この春は野草地区にも目を向けてみませんか。

春の淀川にはさまざまな草花が芽吹きます。人知れず咲く小さな花、日頃よく見る草にも意外な魅力があります。今回は春の草花を、淀川の植物に詳しい有馬忠雄さんにご紹介いただきます。

鳥飼下地区

一津屋野草地区

背割堤地区

枚方地区

点野草地区



有馬忠雄さん
淀川環境委員会委員 淀川との付き合いは昭和40年頃から。昭和46年淀川を守る会発足以降、さまざまな自然の保護や教育などに関わられている。

淀川の草花 今昔

その昔、淀川の水辺はヨシ、オギなどに覆われていました。近代、治水のための河川改修が行われ、水辺には高水敷が設けられ、乾燥に強いセイタカヨシがヨシに代わって広がりました。「陸化」した高水敷はまちなかの空地と変わらない植生へと変わっていましたが、現代はその空地も都市部では少なくなり、淀川は植物が暮らせる貴重な場所となり、現在約850種類の植物が暮らしています。——春の淀川の植物を見てみましょう。

草花雑記

春の草花たちから、親しみやすく、ちょっとおもしろいものを選んでみました。(各文章末の地区名は撮影場所)



■セイヨウカラシナ
「菜の花」(アブラナ科の花・食卓に乗るのはアブラナやナバナの花)の一種。ぴりっと辛みが効いてお浸し、和えもの、バター炒めに。根は辛く、大根おろしに混ぜるとからみ大根のように使える。3～5月(三川合流・左岸)



■ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)
サヤを笹代わりに遊ぶことからピーマメとも。仲間にスズメノエンドウがあり、さらにその中間サイズにカスマグサ(カラスとスズメの間の意味)がある。若葉はお浸し・天ぷらがいける。4～5月(外島地区)



■ヨモギ
「よく燃える草」の意味。葉の裏の白い毛を乾燥させるともぐさになる。生葉は止血効果があり、干して煎じると胃腸薬に。よもぎ風呂もある。新芽はお浸し、天ぷら。草餅、よもぎ団子はポピュラー。間違っって外来のタカヨモギを使うと香りもなくおいしくない。(大淀野草地区)



■春の七草のハハコグサ(オギョウ)
以前は7種全て採れたが、近年はこれが見つからなくなった。1月はまだ小さな新芽のため、よく似た外来のチチコグサモドキなどと間違うことが多く、お店でも混ざっていることがある。ハハコグサを見つけた方はご一報を。4～5月(赤川地区)



■チガヤ
ツバナとも呼ぶ。葉は束ねて神社で見かける「茅の輪(ちのわ)」の材料になる。開く前の穂を口に含むとほの甘く、地下茎も噛むと甘くてサトウキビを思わせる。5月(八雲野草地区)



■カサスゲ
簀や菅笠をつくるスゲで、昔は人の暮らしに近い存在だったが、今は関心も薄い。ヨシ群落で共存するため、以前は淀川の水辺に多く生えていた。5月(八雲わんど)



■タンポポ(カンサイタンポポ)
セイヨウタンポポの分布調査以来、日本のタンポポを関西では「カンサイタンポポ」と断るようになった。ウサギノチとも呼ばれ、餌として利用されてきた。ほろ苦く趣がある。4～5月(点野草地区)



■セイヨウタンポポ
生食用に輸入されたものが広がったという。二ホンタンポポに比べ苦みも少なく、花は天ぷら、根はきんぴらに。通年(外島地区)



■ギシギシ
古い書物に名が出ていることから、昔から薬として利用されていたと考えられる。柔らかい葉は味噌和えに。5月(大淀野草地区)



■ノイバラ
可憐な白い花は、秋になると赤く甘い実をつける。中の種子は利尿や便秘の薬に使われてきた。5月(豊里地区)



■スカシタゴボウ
あぜ道など湿った場所に生えることからタゴボウとも。あくも少ないのでお浸しに。5月(海老江地区)



■ナワシロイチゴ
イチゴには珍しく、ピンクの花を咲かせ、苗代の頃に実が熟す。野いちごの一種だがおいしくない。5月(八雲地区)

意外と多い輸入草(外来植物)

セイヨウタンポポ、セイヨウカラシナのように名前で分かるものから、「え！これも輸入品？」と驚くものまで、淀川には300種類以上の外来植物が生息し、そのほとんどが人の手によって外国から持ち込まれました。



■シロツメグサ
クローバー。江戸時代にオランダからの献上品のパッキング材として使われ、「詰め草」と名がついた。



■コバンソウ
明治時代に愛好家達によって鑑賞用に輸入された。俵麦、大揺草とも。



■ムラサキカタバミ
江戸時代、南米から鑑賞用として輸入された。



■コメツブツメグサ
ヨーロッパ、西アジアから。

淀川河川公園を含む淀川では、本来の自然環境を取り戻すための計画が進められています。三島江地区の切り下げ(水陸移行帯整備)実験に引き続き、水辺の復元が取り組まれ、将来は人々が憩う広場と干渉帯を挟んで、水辺の動植物がいきいきと暮らせるエリアが広がることでしょう。



※野草の採取は野草に詳しい方といっしょに。また、試食は自己責任にてお願いします。